

広報市民リポーターだより

平成4年度の「広報市民リポーター」による執筆は今号が最終回です。リポーターの皆さんには、これまで独自の視点でとらえたいろいろなことを取材し、報告していただきましたが、今回は、市民リポーターという仕事を通して感じたことや考えたことなどを書いていただきました。

健康で 生きがいを持って

工藤 五郎

私が市民リポーターを引き受けて感じたことは、高齢化社会についてでした。高齢者にとっては、まず健康であることが第一のようです。

今ではどこの地区でもやられている老人バレーボール。下川沿公民館にも、週二回のバレーボールに地区のお年寄りたちが健康づくりと生きがいを求めて集まっています。私もその中の一人ですが、雨が降ろうと雪が降ろうと、集まる皆さんの心意気には脱帽ものです。練習中はもちろんのこと、試合中でもみんなが大声を出してプレーしているのは、ストレス解消にもなりますし、健康にも良いと思います。また、練習や試合が終わると、お茶を飲みながら世間話や昔の自慢話などで楽しく過ごしています。

現在、日本は高齢化が急速に進んでいます。そして、平和な世の中だからこそ「皆さん、皆さん」のように長生きしたいものだと思います。そして、健康に気を付け、何か生きがいを持つことに挑戦してみたい

工藤五郎リポーター

(西大館)



かがなものでしょうか。

最後になりましたが、リポーターとしてのこの一年、自分を見つめ直す良い機会となりました。また、取材に協力してくださった方々や広報担当者には、お礼を申し上げます。

家庭教育の大切さ

瓜田輝子

リポーターとしての一年を振り返ってみて思うことは、それまで漫然と過ごしてきた私にとって、軌道に乗るまで時間がかかったことです。また、取材に

応じてくださった方々からは貴重なお話を伺うことができ、リポーターの重任を果たすことができました。感謝申し上げます。福祉バンク大館では、利用会員が少ないのが悩みの種でした。

瓜田輝子リポーター

(獅子ヶ森)



福祉バンクの趣旨は良いのですから、できるだけ多くの人に知ってもらおうようにPRしていく必要性を感じました。

学校週五日制に関しては、秋田大学の教授が「集団教育も大事である」といわれています。また、家庭を考える会会長の福岡潔さんは、「登山などの危ないことでも体験させる、子供同志の切磋琢磨の必要性」や、「休日の過ごし方」の基本的には家庭にある」といわれています。

家庭での幼児教育は、「三つ子の魂百までも」といわれるほど大切です。それに加え、「国家百年の計は教育にあり、ゆとりをはぐくみ、人と人とのつながりをはぐくむ」教育が必要だと思えます。一介の主婦ですが、「学校五日制休日の過ごし方」の取材で幼児教育の大切さをレポートで

樋口昌子リポーター

(東台1丁目)



きたことは、たいへんありがたかったと思いました。

大館に来て リポーターになって

樋口 昌子

千葉県市川市から大館市へ転居して、やっと一年半ほどの月日が流れました。引越して来たばかりの私に、広報の市民リポーターという魅力的な贈り物をくださった関係者の方々。今はたいへん感謝しています。

人と人とのつながりの深い大館。リポーターをさせていただき、そのつながりの中に、ほんの少しですが入り込めたような気がします。同時に、濃密なヒューマンな世界をきっちり構築している広報の仕事に多少なりともかかわったことにより、